

 住友金属鉱山
個人投資家の皆さまへ

住友金属鉱山株式会社 個人投資家向けIRセミナー

- ・ 銘柄略称：住友鉱
(東証プライム)
- ・ 銘柄コード：5713
- ・ 単元株式数：100株

<https://www.smm.co.jp/>



MINING THE FUTURE

2023.12.17

1

430年の歴史

住友グループの源流事業
を受け継ぐ会社

2

生活に欠かせない 非鉄は成長産業

今後需要は↑

3

資源 × 金属 × 材料

3事業連携

世界でも類を見ない
ユニークなビジネスモデル

4

世界の非鉄リーダーへ

サステナビリティを重視

5

健全な財務体質を維持しつつ

配当性向

原則35%以上

資源 × 製錬 × 材料で 未来をつくる

MINING THE FUTURE 



- I** 企業情報
- II** 事業紹介
- III** 成長戦略
- IV** サステナビリティ
- V** 業績・株主還元

創業 1590年 日本の上場企業で2番目に長い歴史

業績（2022年度実績）

売上高	1兆4,230 億円
税引前利益	2,299 億円
当期利益（※）	1,606 億円

財務体質（2022年度末実績）

資産合計	2兆7,079 億円
資本合計	1兆7,893 億円
自己資本比率	60.3%

連結従業員数 **7,330**名（2023年3月末）

時価総額 **1兆2,482**億円（2023年11月30日時点）

世界**14**の国と地域、**7**つの鉱山、**8**か所の製錬所



写真提供：住友史料館

製錬

1590年（天正18年）創業

1500年

1600年

1700年

1800年



1691年 別子銅山の稼行開始

資源

1973年の閉山まで
283年間 住友が運営



成長戦略の推進

積極的な海外鉱山の権益取得
フィリピンでのニッケル製錬所建設
車載用電池正極材のリーディングカンパニーに

1960年代～
国内鉱山閉山
経営多角化

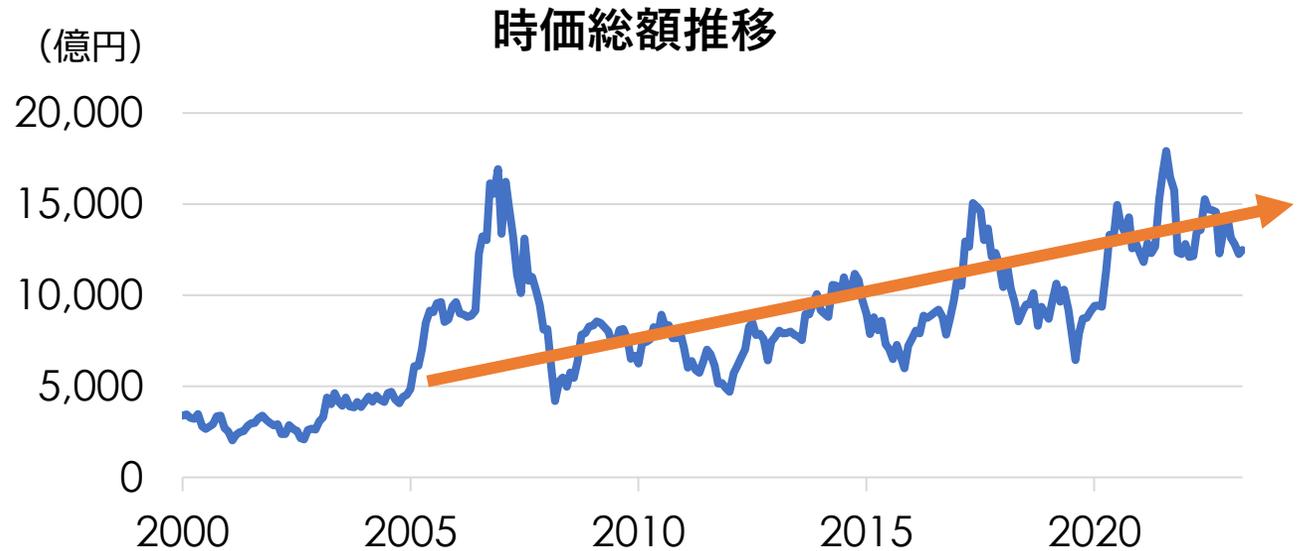
材料

本業回帰（選択と集中）

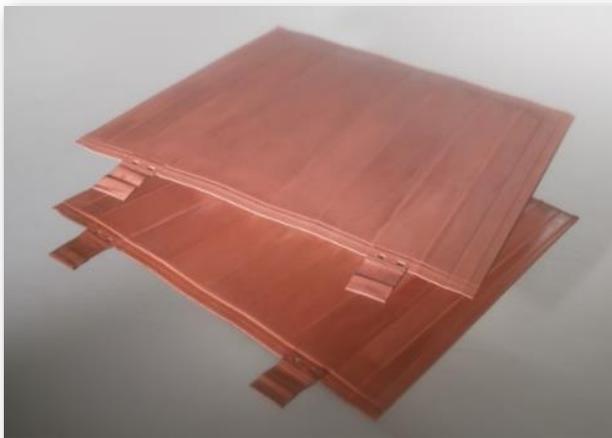
1900年

2000年～

1999年
JCO臨界事故
企業再生計画を
策定し再出発



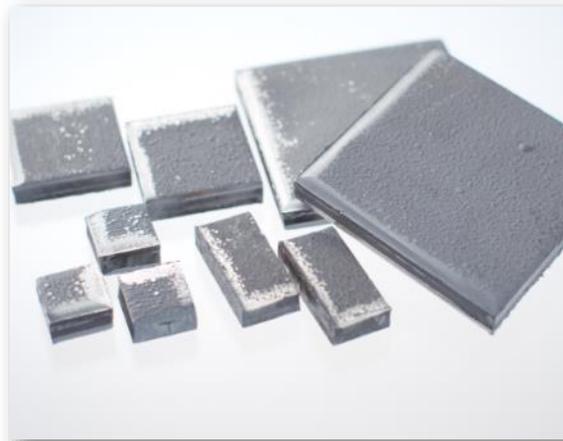
電気銅



金



電気ニッケル



“電気”銅、
“電気”ニッケル、
“電気”コバルトとは？

電気分解で精製された
純度の高い銅、ニッケル、
コバルトのこと。
純度は99.9%以上。

これら生活に欠かせない金属を日本国内の工場生産

硫酸ニッケル

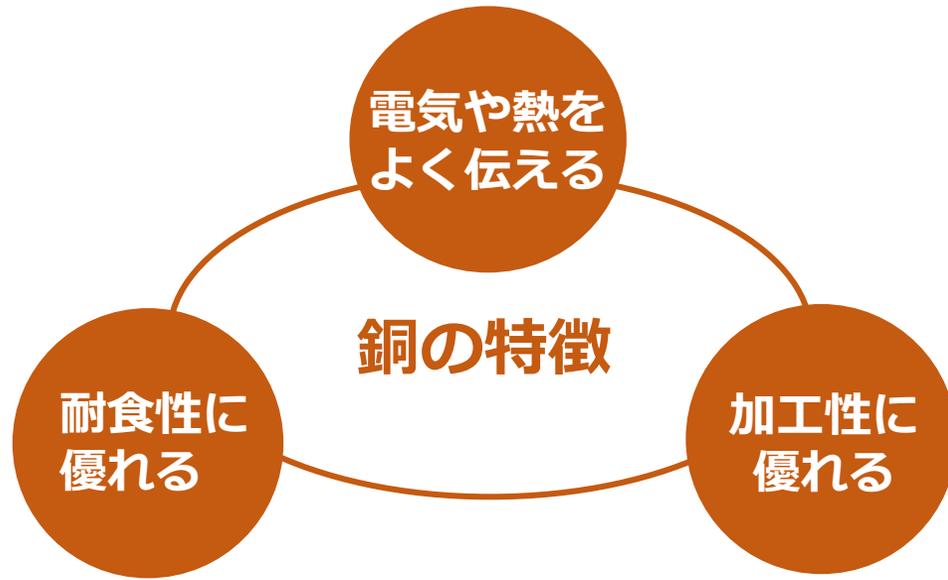


電気コバルト

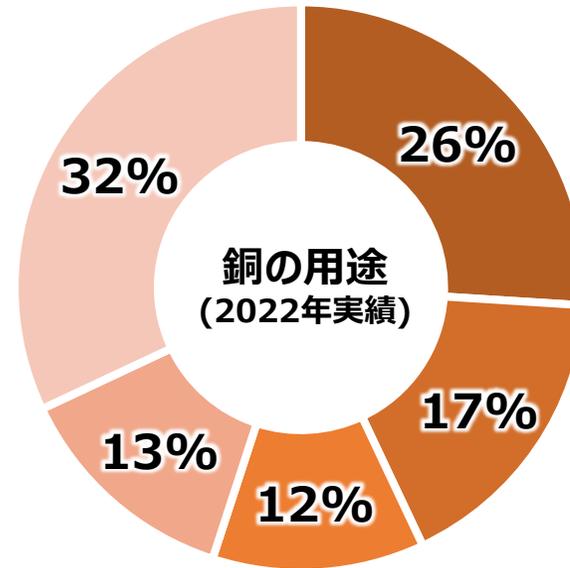


フェロニッケル





引き延ばされて銅線に



- 建築物
(水・ガス配管、屋根、室内装飾、配電線等)
- インフラ
(送電線、通信線)
- 産業
(変圧器、モーター、プラント機器等)
- 輸送
(自動車、鉄道、船舶等)
- その他

出典：The International Wrought Copper Council(IWCC) and the Inter National Copper Association (ICA)

電気があるところには、**銅**
ほぼ必ず使われている

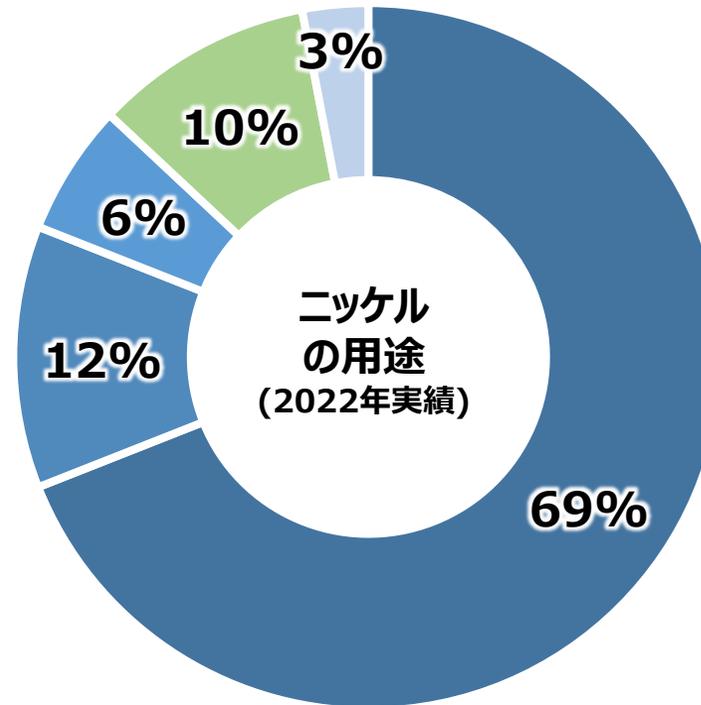


ニッケルの用途



耐食性に優れる/
電池材料としても注目

ニッケル



- ステンレス鋼
- 合金および鋼鉄・鋳造
- メッキ
- 電池
- その他

出典：S&P Global Market Intelligence (2023年6月26日)

3事業連携 (資源×製錬×材料)

鉱石から電池材料まで
一貫した

自社ニッケルサプライチェーン

資源

製錬①

製錬②

材料

リサイクル
(製錬③)



原料のニッケル鉱石
を確保



ニッケル鉱石を
製錬し不純物を除去



硫酸ニッケル
に加工



電池材料 (正極材)
に加工

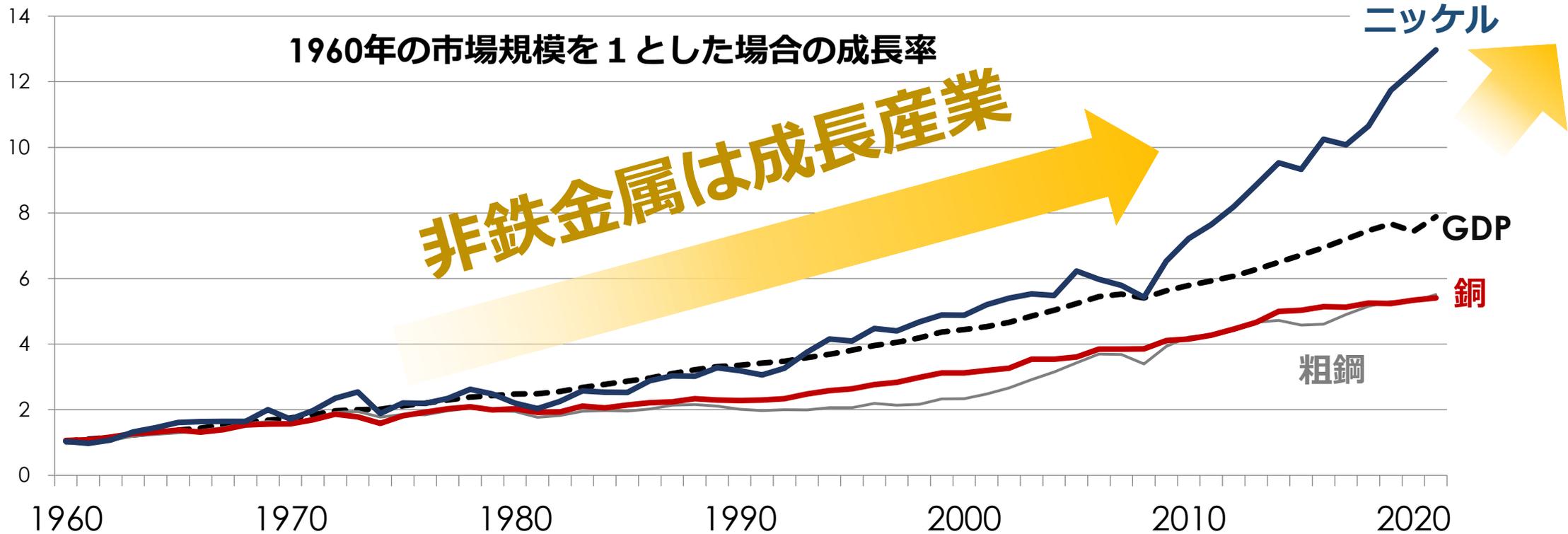


再資源化
(銅、ニッケル
コバルト、リチウム)

世界でも類を見ない独自のビジネスモデル

銅の年間市場規模：約2,600万トン

ニッケルの年間市場規模：約320万トン (いずれも2023年。2023年10月時点予想)



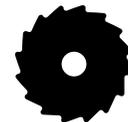
- 自動車電動化、再生エネルギー普及の進展に伴い、電線・電装部品向けの銅、電池正極材に使用されるニッケルの需要増加が見込まれる

電動車

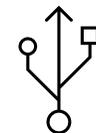
- EV 電気自動車
- PHEV プラグインハイブリッド自動車
- HEV ハイブリッド自動車
- ICE 内燃機関車（ガソリン車）



電池



モーター

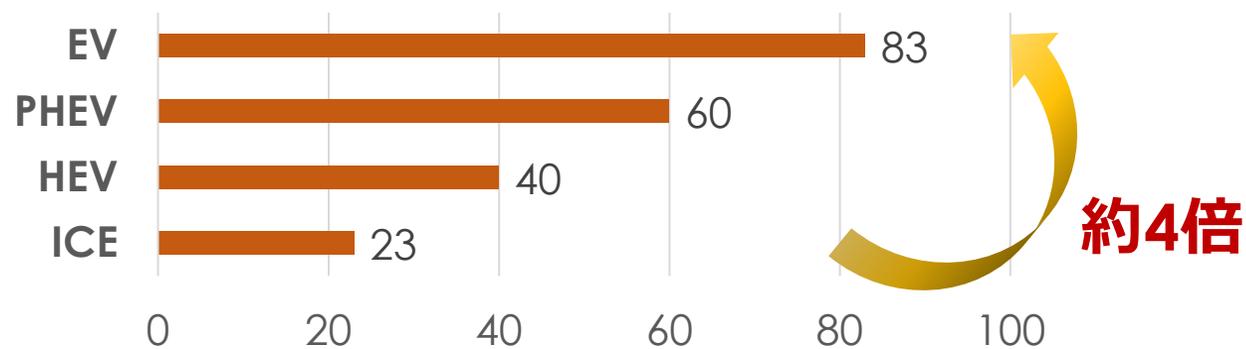


ケーブル

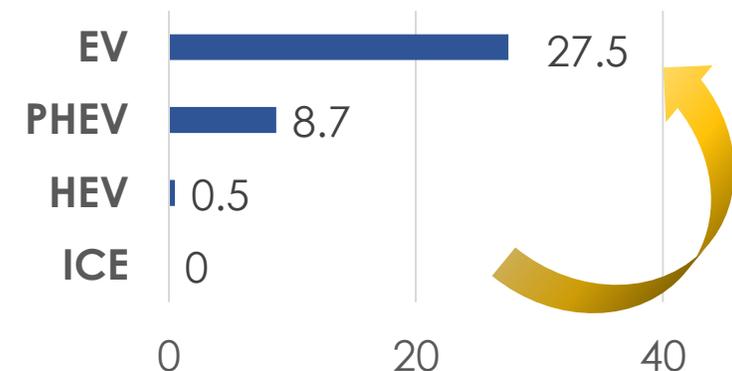
EV化に伴い、
1台あたりに必要な
銅やニッケル
が大幅に増加

自動車一台当たりの資源使用量（kg）

銅



ニッケル



出典：経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部「2050年カーボンニュートラル社会実現に向けた鉱物資源政策（令和3年2月15日）」より
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shigen_nenryo/kogyo/pdf/007_03_00.pdf

- I 企業情報
- II 事業紹介**
- III 成長戦略
- IV サステナビリティ
- V 業績・株主還元





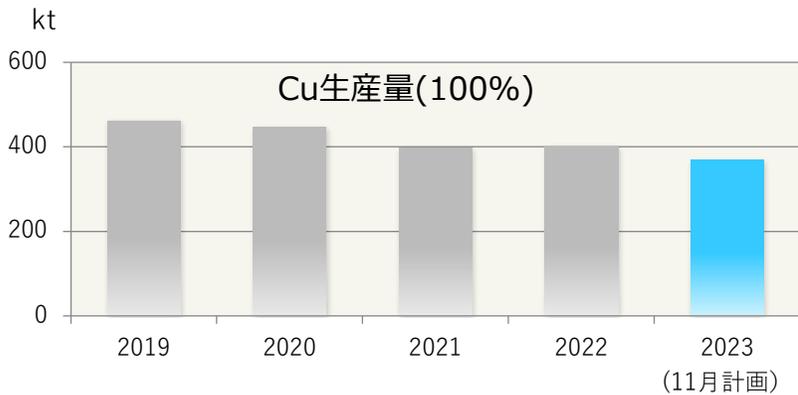
海外銅鉱山

- 北米・南米・オーストラリアに6つの銅鉱山の権益を保有
- 高いコスト競争力、豊富な資源量、経験豊富なオペレーター
- ケブラダ・ブランカ銅鉱山（チリ）は2024年からフル生産へ

モレンシー銅鉱山（米国）



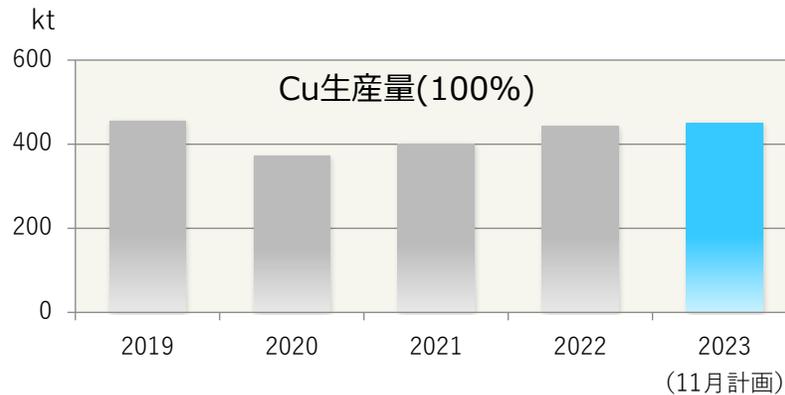
権益比率	
FCX	72%
SMM	25%
住友商事	3%



セロベルデ銅鉱山（ペルー）



権益比率	
FCX	53.56%
SMM	16.80%
住友商事	4.20%
その他	25.44%



カンデラリア銅鉱山（チリ）



権益比率	
Lundin	80%
SMM	16%
住友商事	4%

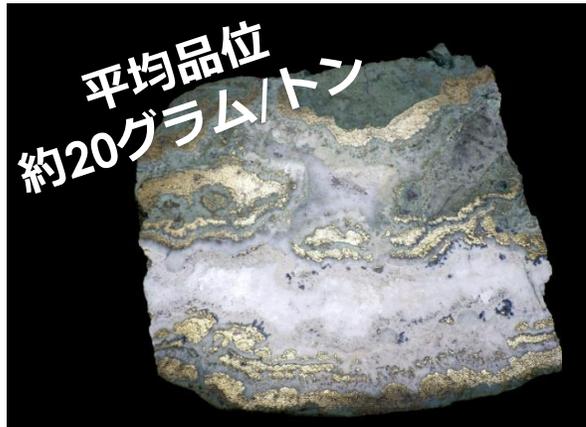


※オホスデルサラドとの合算

AU
金

菱刈鉱山

- 世界トップレベルの高品位、豊富な埋蔵量を誇る金鉱山
- 次世代の育成拠点としても活用
- 高い収益力で長期安定的に当社経営に貢献



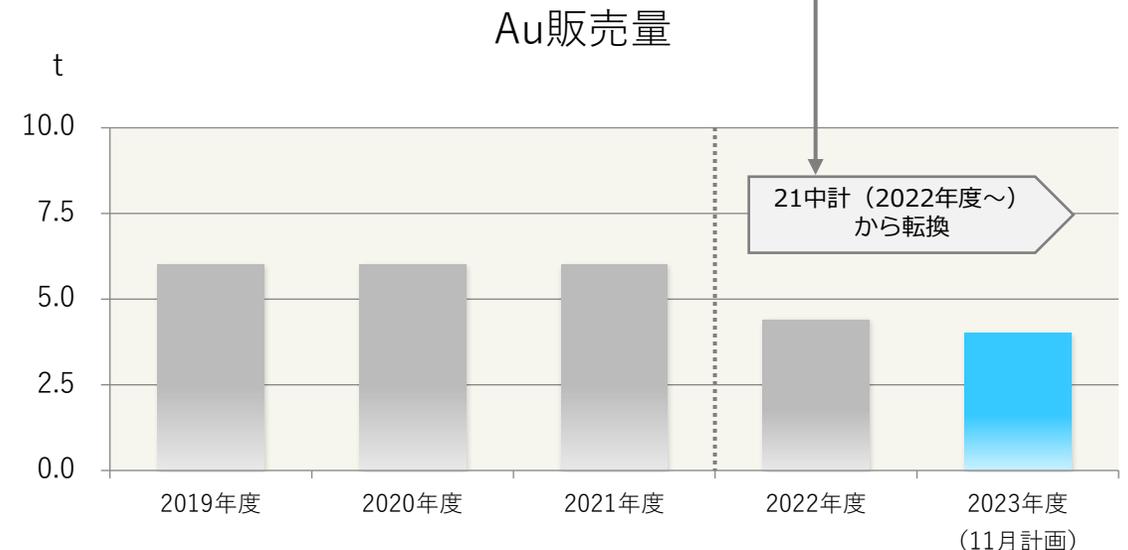
豊富な金埋蔵量

155トン

(2022年12月末時点)

- ・所在地：鹿児島県伊佐市
- ・1985年開山
- ・当社権益比率 100%

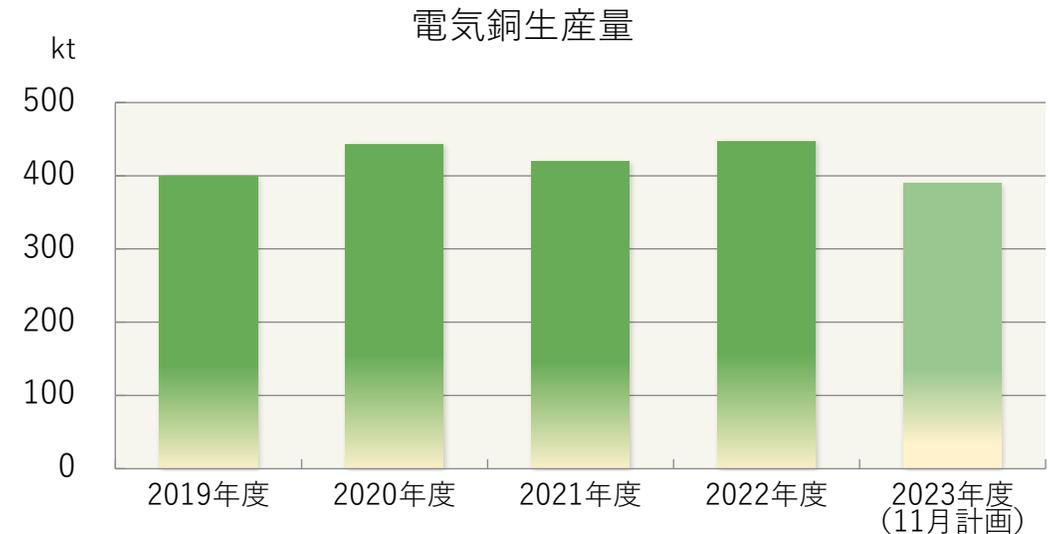
**平均品位での採掘を基本とする
サステナビリティ重視の操業へ転換
(→マインライフ延長)**





Cu
銅

- 環境に配慮した効率の高い生産プロセスで高品質な銅地金を安定的に生産
- 長年の技術の積み上げによる高いコスト競争力
- 貴金属/レアメタルの回収やリサイクルによる資源循環を担うサプライチェーンの要



故銅（銅スクラップ）、銅滓（銅を含む二次材料）、E-スクラップ（電子機器類の廃基板）などのいわゆるリサイクル原料からの有価物の回収も積極的に進め、電気銅生産量の約4分の1はこれらの原料由来となっている。

Ni ニッケル

- 日本で唯一、電気ニッケル/電気コバルトを生産
- 生産性・コスト競争力の高いMCLE（マツト塩素浸出電解採取）法
- 世界に先駆け、High Pressure Acid Leach（高圧硫酸浸出）の実用化に成功



- ・ それまで利用できなかった低品位の酸化鉱からニッケルを回収する技術
- ・ 限りある鉱物資源の活用に貢献

電気ニッケル生産量







車載電池向け正極材



スマートフォン向け
結晶材料



機能性インク
(近赤外線吸収材料)



コンデンサ向け
ペースト

カーボンニュートラルへの動き

- ・ 自動車の電動化

デジタル社会の高度化

- ・ スマートフォン5G化
- ・ 車載電子部品の増加
- ・ IoTの進化



高機能材料の需要は大幅に増加

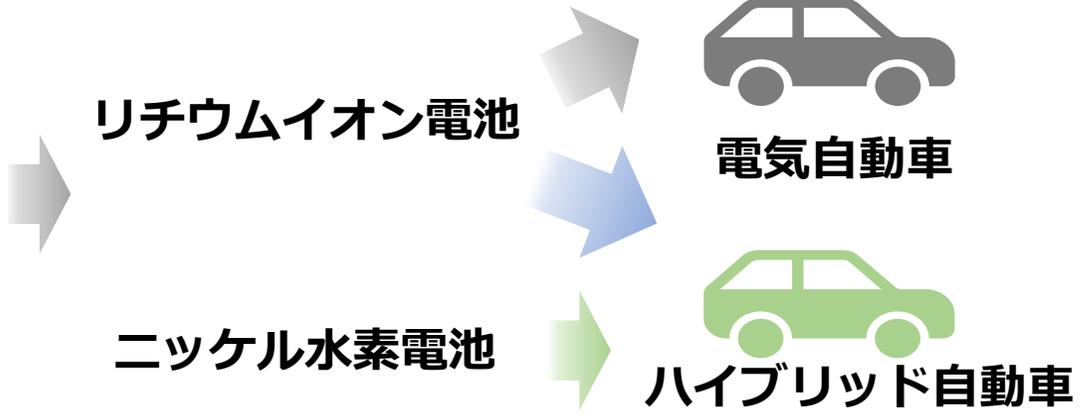
高品質・高付加価値の製品ラインナップで
カーボンニュートラル・デジタル社会の
高度化に貢献

今後も成長が見込まれる
車載用電池向け正極材で

世界シェアトップクラス



車載用電池向け
ニッケル系正極材



自動車電動化への
材料事業の貢献

CWO®（近赤外線吸収材料）「SOLAMENT™」

● SOLAMENT™とは？

- 当社が発明し、国内外で特許を持つ近赤外線吸収材料CWOをもとにした素材テクノロジー
- 太陽光などに含まれる「近赤外線」を吸収する特性がある
- これまでは車のウィンドウフィルムとして主に使用されてきたが、アパレル、建材、農業、医療分野などへの市場進出を強化している



● JAPAN MOBILITY SHOW 2023で 羽毛レスの透明ダウンジャケットを展示

- アパレル分野への進出を狙い、プロトタイプとして制作
- SOLAMENTを織り込んだ生地を使用することで、ダウン（羽毛）を使わずに十分な暖かさが得られる



- I 企業情報
- II 事業紹介
- III 成長戦略**
- IV サステナビリティ
- V 業績・株主還元

長期
ビジョン

「世界の非鉄リーダー」を目指す

「世界の非鉄リーダー」とは

- 資源権益やメタル生産量において、グローバルでの存在感（=世界Top5に入るメタル）がある
- 資源メジャーでも容易に模倣できない、卓越した技術や独自のビジネスモデルを有している
- 持続的成長を実現し、安定して一定規模の利益をあげている
- SDGs等の社会課題に積極的に取り組んでいる
- 従業員がいきいきと働いている

長期
ビジョン

「世界の非鉄リーダー」を目指す

ニッケル 生産量 15万トン/年

銅 権益分生産量 30万トン/年

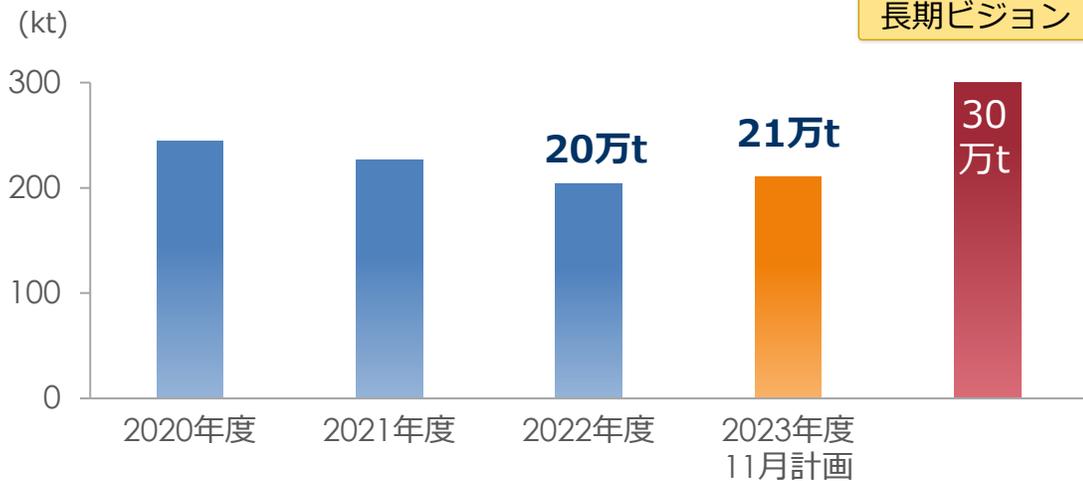
金 優良権益獲得による鉱山オペレーションへの新規参画

材料 ポートフォリオ経営による税前利益 250億円/年の実現

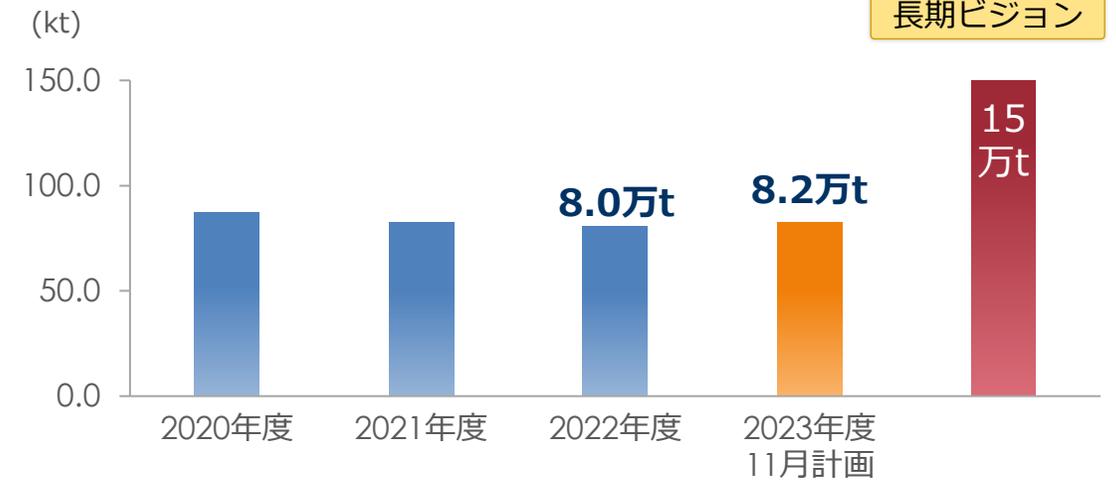
利益 親会社の所有者に帰属する当期純利益 1,500億円/年

ターゲット

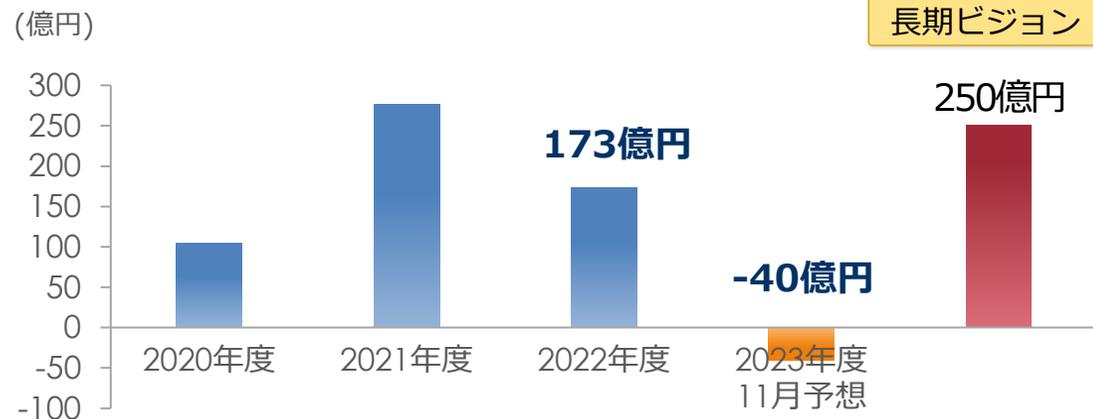
Cu (鉱山権益分生産量)



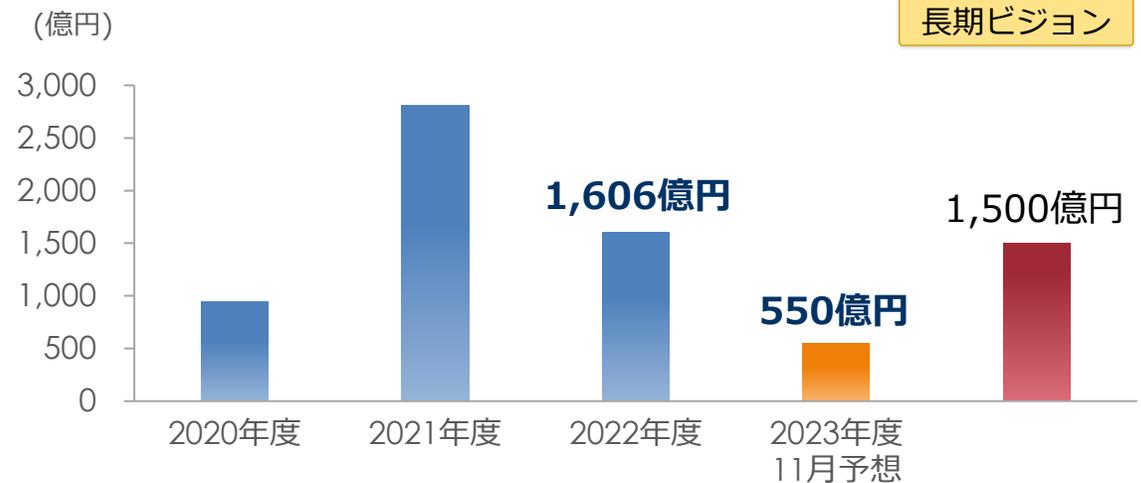
Ni (年間生産量) ※長期ビジョンは生産能力



材料事業 (セグメント利益)



当期利益 (親会社の所有者に帰属する)



4つの挑戦

挑戦1. 企業価値拡大 -大型プロジェクトの推進

- 電池材料（正極材）生産能力増強
- ケブラダ・ブランカ2（銅鉱山）プロジェクト
- コテ金開発プロジェクト

挑戦2. コアビジネスの持続可能性向上

- 3事業連携（ニッケル-電池）のバリューチェーン強化
- 菱刈鉱山のサステナビリティ重視の操業への転換
- 銅製錬事業の競争力強化
- 機能性材料事業の拡大戦略

挑戦3. 社会環境変化への適応

- GHG（温室効果ガス）排出量削減
- カーボンニュートラルに貢献する製品・新技術・プロセスの開発推進
- DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応
- 人材確保・育成・活用への取り組み

挑戦4. 経営基盤強化

- 安全への取り組みの強化
- サステナビリティ施策の推進加速
- コーポレートガバナンス

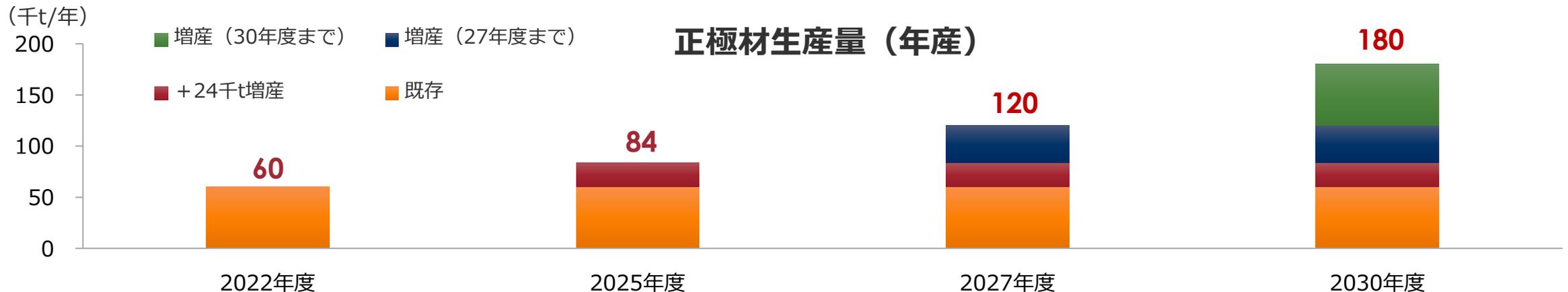
電池材料（正極材）生産能力増強

- +24千トン/年増産の推進（～24年度）
 - ・新工場の建設の建設は概ね計画通り
 - ・2023年8月より主要建屋への設備設置を開始
- 次期増産に向け検討継続中
 - ・**ニッケル系正極材**市場シェアでトップクラス維持
- LFP（リン酸鉄リチウム）正極材の新規プロセス
 - ・生産性改善・コスト低減を目指し、技術開発推進中

新工場の建設風景（愛媛県新居浜市）



2023年9月撮影



Cu
銅

ケブラダ・ブランカ2 (QB2) プロジェクト (チリ)

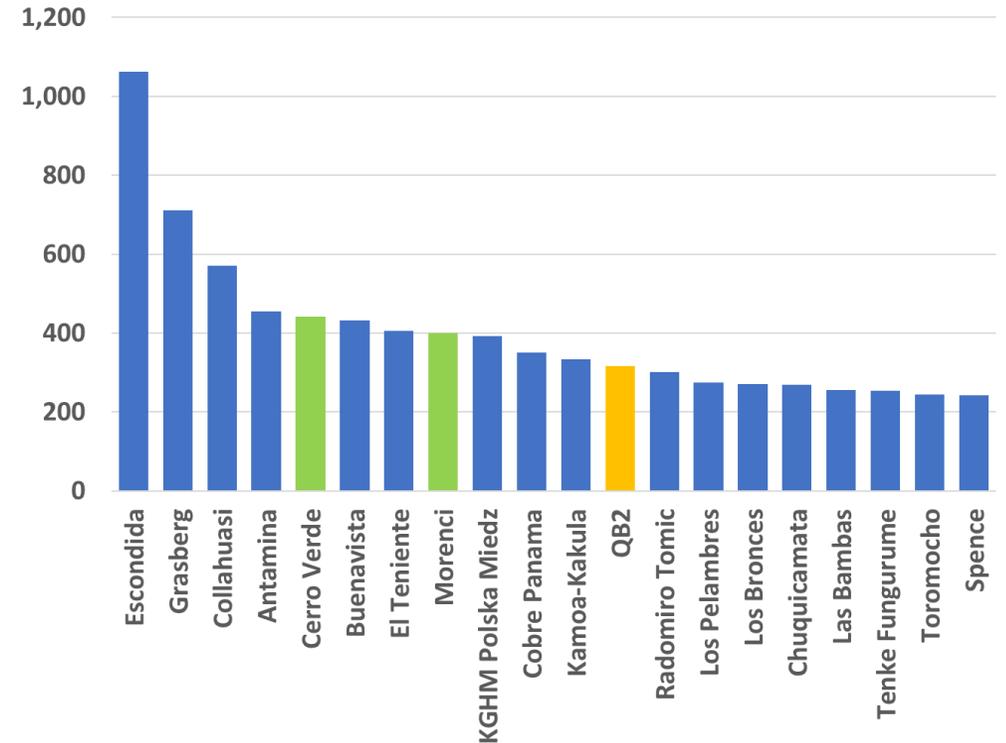
- 2018年12月に参入の意思決定
- **2024年からのフル生産**にむけ設備の立ち上げ中
- フル生産到達後、年間28.5万～31.5万トンの生産を見込む (100%ベース)
- マインライフ：約28年*

*2022年時点の計画

高い競争力と世界トップクラスの生産量が期待される銅鉱山

権益比率	Teck	60.00%
	SMM	25.00%
	その他	15.00%

2022年鉱山別生産量 上位20社
+QB2年間生産量見込み
(当社調べ)



AU
金

コテ金開発プロジェクト (カナダ)

- 2017年6月に参入の意思決定
- **2024年1~3月の生産開始**にむけ設備の立ち上げ中
- 2024年の生産計画 13トン（当社権益分：4トン）*
- マインライフ：約18年*

*2022年時点の計画

**年間生産量は直近数年間に開発された
金鉱山の中では上位、
コスト競争力もトップクラス**

権益比率

IAMGOLD	約55.78%
SMM	約36.72%
その他	7.50%

※2023年10月末時点



● **SiC（シリコンカーバイド：(株)サイコックス）**

- ・ 貼り合せSiC基板「**SiCkrest®(サイクレスト®)**」を製造
- ・ 単結晶の貼り合わせ技術で、より小さい製造エネルギーで供給量の増大が可能
- ・ 6インチ基板の顧客評価が進められており、一部販売を実施中
- ・ 8インチ開発ラインを構築中。2024年度第1四半期より試作開始予定
→供給拡大要請に応えるため、一部顧客に**貼り合せ技術のライセンス供与開始**



● **塩湖からリチウムを回収する実証試験を開始**

～リチウム資源確保にむけ、新技術が実証ステージに～

- ・ 当社と北九州市立大学が共同開発した吸着剤（マンガン系）を使用
- ・ 南米の塩湖かん水からのリチウム回収試験を実施
- ・ 2023年中に試験を開始し、取得したデータを吸着剤や設備の改良につなげる

サステナビリティ

- I 企業情報
- II 事業紹介
- III 成長戦略
- IV サステナビリティ**
- V 業績・株主還元

当社事業の創業以来引き継がれてきた事業精神

[第1条] わが住友の営業は**信用を重んじ、確実を旨とし、**
もってその鞏固隆盛を期すべし

[第2条] わが住友の営業は**時勢の変遷理財の得失を計り、**
弛張興廃することあるべしといえども、
いやしくも浮利に趨り軽進すべからず

(昭和3年 住友合資会社社則「営業の要旨」より抜粋)

経営理念

- 住友の事業精神に基づき、**地球および社会との共存**を図り、健全な企業活動を通じて社会への貢献とステークホルダーへの責任を果たし、より信頼される企業をめざします
- **人間尊重**を基本とし、その尊厳と価値を認め、明るく活力ある企業をめざします

サステナビリティ方針

- 住友金属鉱山グループは、**社会の持続的発展に貢献**する経営課題に取り組み、**事業の持続的な成長と企業価値の向上**を図ります



「写真提供：住友史料館」

明治時代、植林前の別子銅山



「写真提供：住友林業株式会社」

現在の別子銅山

このまま別子の山を荒蕪するにまかしておくことは、天地の大道に背くのである。どうにかして濫伐のあとを償ひ、別子全山をあをあをとした姿にして、之を大自然にかへさねばならない。

—伊庭貞剛（第二代住友総理事）

● 地域社会との共存

社会的操業許可（ソーシャルライセンス）は当社事業の大前提

2010年



2013年



フィリピン鉱物産業界において
榮譽ある多くの賞を継続的に受賞



ステークホルダーと対話を行い
支援内容を毎年決定



地域住民への無料診察
プログラム



地域の学校運営支援

● サプライチェーンにおける人権に対する取り組み

・責任ある鉱物調達

- 金と銀 LBMA RGG/RGC認証取得を継続
- コバルト 2021年よりRMI認証取得を継続
- ニッケル 2023年2月に第三者監査受審、RMI認証取得
- 銅 2023年7月に第三者監査受審、RMI認証取得



● 気候変動に対する取り組み

・2050年ネットゼロに向けたロードマップ

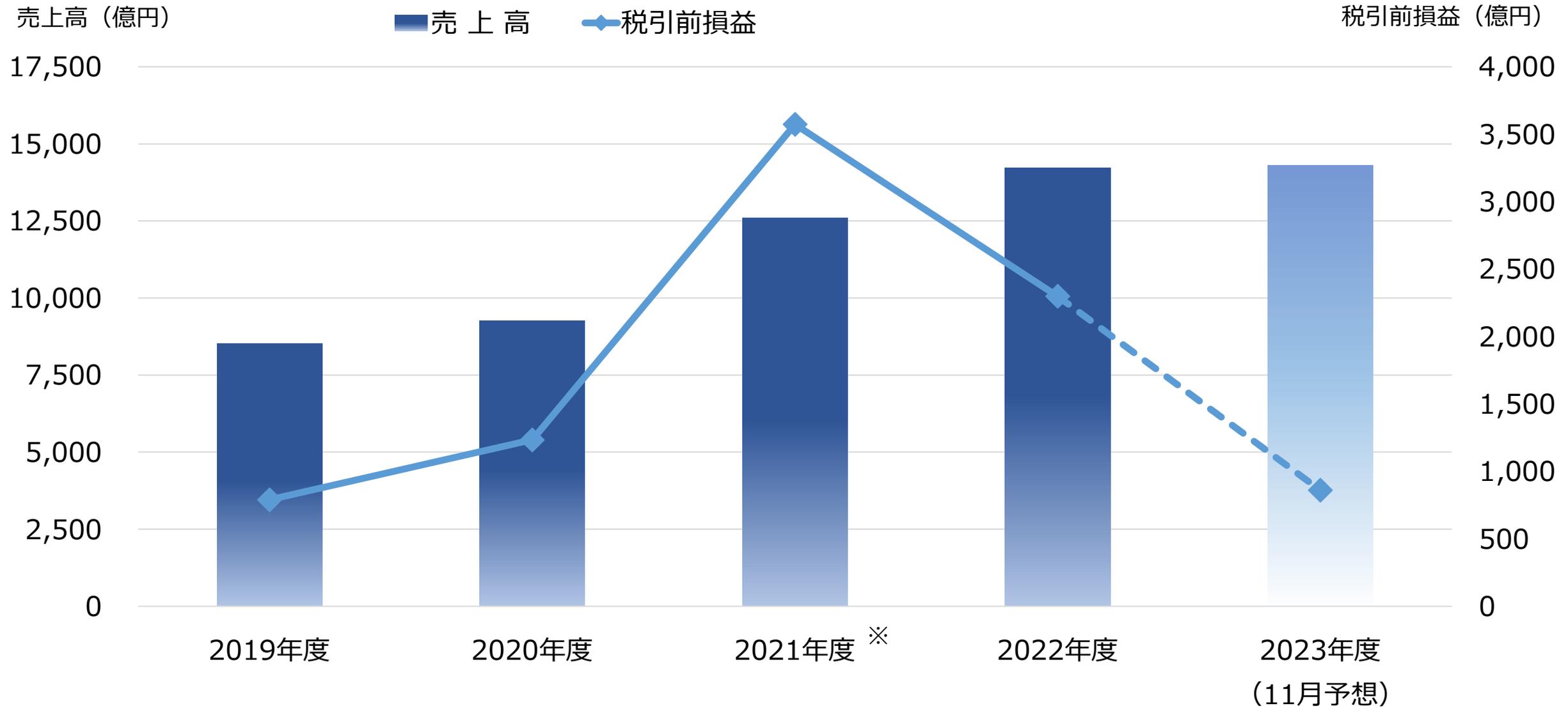
→2023年度内の公表にむけカーボンニュートラル推進委員会で策定中

・製造工程のCO₂削減の具体的な取組

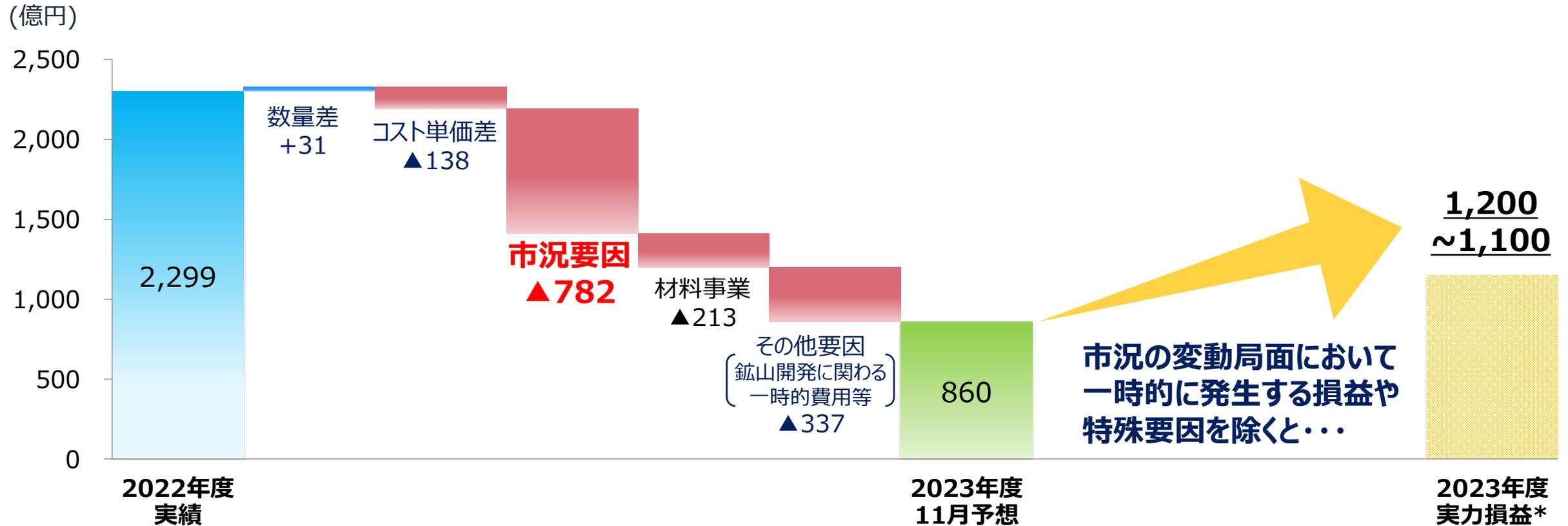
→当社 ICP (Internal Carbon Pricing) 制度を活用し、エネルギー転換等を推進中

- I 企業情報
- II 事業紹介
- III 成長戦略
- IV サステナビリティ
- V 業績・株主還元**

当社業績と金属価格等の関係

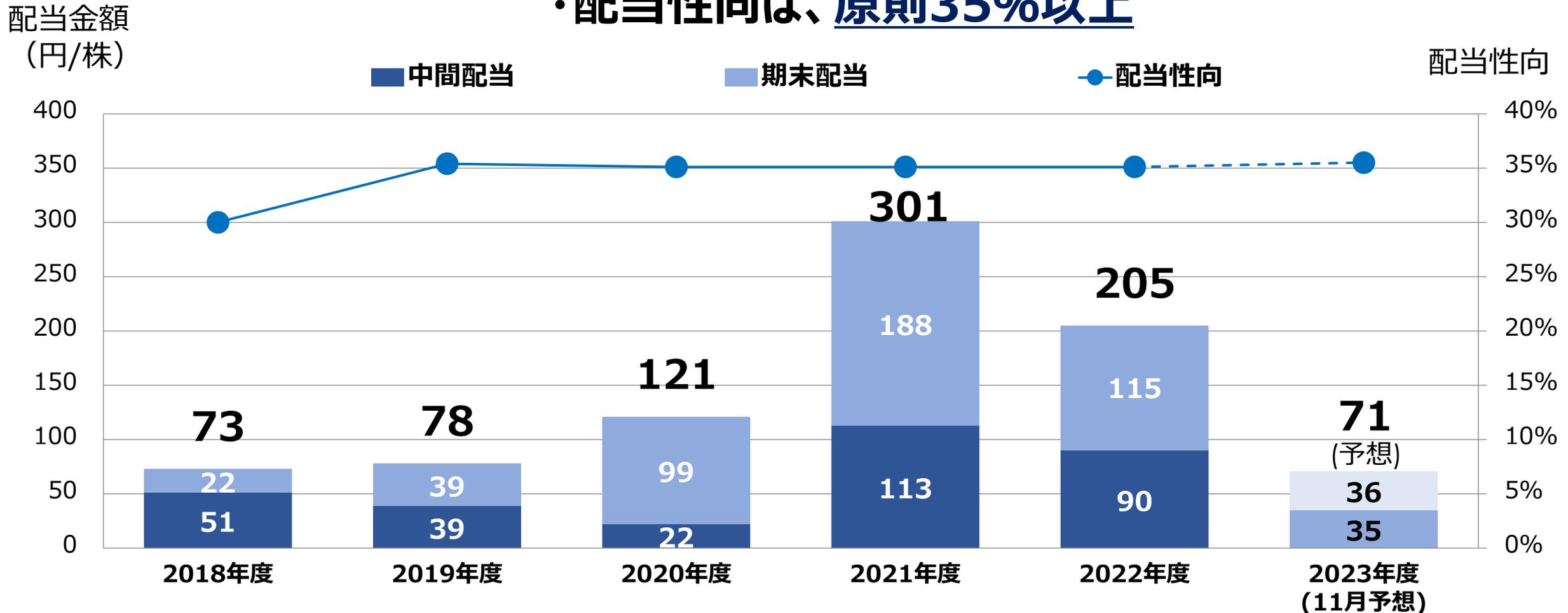


- 2023年度は、前年度の市況（金属価格、為替）の強い追い風がなくなり、減益を予想
- 市況の変動局面において一時的に発生する損益、および当該期間の特殊要因の影響を除いた2023年の実力損益*は1,200～1,100億円



* 実力損益：実績および予想値から、金属価格および為替の変動局面において一時的に発生する損益、および当該期間の特殊要因の影響を除いたもの

<配当方針> ・業績連動に基づく配当 ・配当性向は、原則35%以上



※2021年度の配当性向はシエラゴルダ譲渡に関する調整分を除いて算出

(億円)

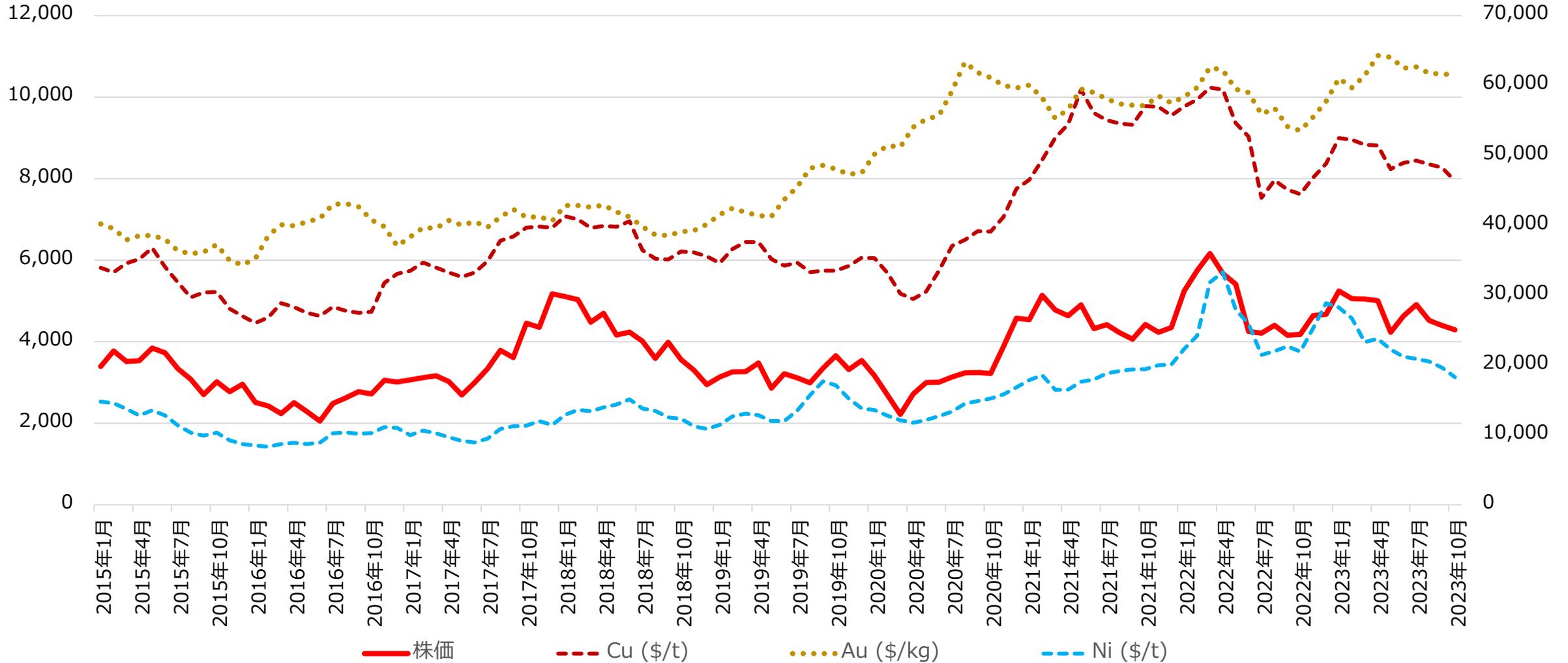
要素	変動幅	2023年度 税引前利益
銅 (Cu)	±100\$/t	27
ニッケル (Ni)	±10 ¢ /lb	15
金 (Au)	±10\$/toz	2
為替レート (円/\$)	±1円/\$	12

当社の業績に円安と金属価格の上昇はプラス効果

当社株価と金属価格の推移

当社株価 (円) & Cu価格 (\$/t)

Au (\$/kg) & Ni価格 (\$/t)



決算日	3月31日
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京（東証プライム）
業種	非鉄金属
証券コード	5713
株式売買単位	100株
株式の状況	発行可能株式総数：500,000,000株 発行済株式の総数：290,814,015株

株価	4,292円/株
時価総額	1兆2,482億円
配当利回り	1.65%
PBR 株価純資産倍率	0.67倍
PER 株価収益率	21.44倍
EPS 1株当たり当期利益	200.17円

※2023年11月30日時点

1

430年の歴史

住友グループの源流事業
を受け継ぐ会社

2

生活に欠かせない 非鉄は成長産業

今後需要は↗

3

資源 × 金属 × 材料

3事業連携

世界でも類を見ない
ユニークなビジネスモデル

4

世界の非鉄リーダーへ

サステナビリティを重視

5

健全な財務体質を維持しつつ

配当性向

原則35%以上

資源 × 製錬 × 材料で 未来をつくる

MINING THE FUTURE 





MINING THE FUTURE

【ウェブサイト 個人投資家のみなさまへ】

<https://www.smm.co.jp/ir/investor/>

【お問合せ先】

広報IR部：03-3436-7705

ウェブサイトお問合せフォーム：<https://www.smm.co.jp/contact/>



ニュースメールで情報発信中。
是非ご登録ください。